



第2回 Report

2023.09.07(木) 18:00~20:00 福岡商工会議所2階 第1研修室

参加者 / 16名	
チャレンジャー	12名
オブザーバー	4名
他	
アドバイザー	2名
事業実施者	2名
市職員	3名

今回のテーマ

箱崎の事例から“応援しあえる関係性づくり”を考える

キックオフから約1ヶ月後の第2回は、欠席者なし！油津商店街を研究している九州産業大学4年生などの見学者も加わり開催しました。



あらためて、コーディネーターの木藤亮太さん（株）ホーホウ 代表取締役より、今年度の事業は、これまでの人材発掘・育成から応援するチームづくりにシフトし、実験的に何かを実践します！と事業の紹介がありました。箱崎商店街の事例から、“応援しあえる関係性づくり”について考えました。

プログラム

- ①オープニング
木藤さんより
今年度の商店街NEXTチャレンジャー事業について
- ②箱崎商店街の事例から
応援しあえる関係性づくりを考える
自己紹介&感想共有
本日のまとめ
- ③クロージング

毎週火曜日は運営委員会という名の懇親会

最初は、今年度箱崎商店街連合会の会長になった斎藤康平さん（1期生）と、兄の昌平さんにインタビュー。斎藤さんは、お父さまの時代から箱崎で設計事務所を営む傍ら、NPO法人でまちづくりや商店街組織に関わっています。



- ・ 前会長の時に、理事会をやめ、やりたい人が話し合っていく運営委員会方式に変更した。毎週火曜日に運営委員会という名の懇親会をムメイジユク（交流スペース）で開催。

- ・ コロナ禍の商品券事業を機にそれまで3,000円だった月会費を一時的に無料に。九大移転で27店舗までに減少した組合員数が大きく増え、現在は103店舗。
- ・ 翌年から会費1,000円にして、事務局の運営費に当てている。クラフトビール事業やコンポスト事業などの事業費は、参加する個店や個人から出し合い、収支を賅っている。
- ・ 5,6年前に履物屋の方が始めたはしご酒のイベントを、今年から去年オープンした店の女性が引き継ぎ、共感する店が集まって開催。集客につながるかまだわからないが会員からの提案を実行できたことを成功と捉えている。これも毎週火曜の集まりから始まった。

ムメイジユクはおしゃれな公民館！？

ムメイジユクの懇親会に参加したチャレンジャー | ガラス張りの中に人が集まっているのを見たとき、**興味が湧いたが何をやる場所かはわからなかった。初めて火曜に参加した時に、ここは楽しい場所です。いつ来てもいいんだと思った。**そういう場所を、自分のまちにも作りたい。

福岡大学 杉本教授 | これ、マーケティング的には最高！そんなプラットフォームをどう作ったのか。そのノウハウが可視化されると、他の商店街にも作りやすくなりますね。



応援は商店街・まちのHUB人材を下支えすること!?

木藤さん | 商店街・まちには、客観的に見る人材（HUB人材/チーム）が必要。必要な応援はHUB人材を下支えすることかもしれない。彼らは中の人同士や、外に出ていって外部の人とのつなぎ役になり、中の人だけではできない環境整備や創業支援につながる。あちこちのまちのHUB人材同士が接点となって、まちに交流が生まれ、ストリート商店街のような協働もできる。この場合は、そういう人の集まりでプラットフォームとみることもできる。どうやって持続的にやっていく仕組みを作るか。次回も議論していきましょう。

ふくおかストリート商店街(<https://syoutengai.net/>)

続いて、今年3月に「ふくおかストリート商店街」を箱崎と一緒に開催した橋本雅和さん（株）まちのわを交えて話を聞きました。持続可能な地域コミュニティの創出を図るために、あちこちの地域を訪れていた橋本さん。商店街外部の企業の人間でも何の違和感もなく受け入れる箱崎・ムメイジユクに顔を出すようになります。そんな中、複数の商店街が連携するイベントをやらないかという箱崎商店街の提案に、面白い！と協力することになり、電気ビル1F広場で開催となったのが「ふくおかストリート商店街」。箱崎のほか、場所が比較的近く興味関心を持った清川、柳橋と協力して開催。実施前に懇親会をやり、当日を迎えたことがとてもよかったそう。仲間意識が芽生えて、2回目の声かけにも快諾があり、春吉を加えて11/5（日）に開催予定とのこと。楽しみ～♪

